

# 117 《ユディト》の謎 カラヴァッジョ

2024

真鍋友範



## 1 ユディトの剣の握り方では、首が切れない

よく見ると、【剣を持つユディトの右手の握り方では、敵将ホロフェルネスの首は切れない。】

しかし 【なぜ、ユディトは、このような握り方をしているのか。】

この理由は、【剣を持つ右手の身体動作を検証すると、すぐに判明する。】

カラヴァッジョは、描くときモデルを使っていた。当然ユディトを描くと段階で、モデル役の娼婦フェリテに対し、剣を持ってホロフェルネス役の首を切られる役の男性モデルに対して、首に剣を当てるようよう指示したのは、間違

いない。

そこで、問題が発生する。

もしも、忠実には先を、首先に当てた場合、長時間のモデル姿勢が維持されないといけませんが、【重い真剣の刃先が、モデル役の男の首を実際に傷つける可能性がある】。

おそらく、【フェディテは、剣を持つ手を180度ひっくり返し、剣の背側がモデル役の男の首に接するように、通常ではない剣の使い方で、長時間のモデルを勤めたのだろう。】

問題は、カラヴァッジョがこの事実に対し、最終的に修正作業を加えなかった点にある。

カラヴァッジョ自身が、それに気付かなかったのか、それとも修正の時間的余裕が無かったのかの、どちらかの理由が考えられるのだ。

#### 1) カラヴァッジョが気付かなかった可能性

カラヴァッジョの描いた《聖マタイの殉教》に、その例がある。



\* 白丸で囲まれた部分—何を描いたか謎—他と繋がらない

恐らくだが、これは、一度描いた内容を、描き直した際に、【カラヴァッジョ自身が、描き直し忘れた部分ではないか、と推定される。】洗礼予定者の裸体の一部のようにも見えるが、周囲との関連性が読み取れない内容なのだ。

もしも、これが事実なら、《ユディトとホロフェルネス》を描いた時にも、《聖マタイの殉教》と同じく、最終的に、誤った剣の持ち方を絵画上で修正するのを失念し、そのまま完成させた可能性がある。

## 2) 修正への時間的余裕が無かった

当時、カラヴァッジョは、《聖マタイの召命》とともに、この《聖マタイの殉教》の2枚の連作を依頼されていた。

カラヴァッジョ自身は、最終的にこの部分を修正し、完成したかったが、時間的余裕が全く無かったのか、あるいは、カラヴァッジョの伝記映画にも描かれていたように、モデル役のフェリテと反目し、フェリテがモデル役を放棄し、修正後の完成へと、進めなかったのかもしれない。

## 2 結論

真相はわからないが、何れにしても、ユディト役のモデルであった娼婦フェリテの剣の握り方で、ホロフェルネスの首は切れないのだ。

